

2013年冬季ボーナスアンケート調査(宮崎県内)

当研究所では、宮崎県内における消費動向あるいは生活実感などを探るため、1979年以降、毎年夏冬の年2回ボーナスアンケート調査を実施している。以下、今年の冬季ボーナスについて、10月下旬から11月中旬にかけて実施した調査結果をまとめた。

【調査結果の概要】

1. ボーナスは「支給される(86.5%)」が前年比2.1ポイント(以下、「P」)上昇した。増減見込みは「同じくらい(71.5%)」が最多で、前年並みを見込む回答が目立つ。
2. ボーナスの見込み額は「10万円以上30万円未満(37.3%)」が最多。
3. 使いみちは「貯蓄(70.3%)」が最多で、貯蓄の目的は「家計の補充(44.6%)」、貯蓄の方法は「定期性預貯金(64.5%)」が最も多い。
4. ボーナスでの購入予定品は「衣料品(57.0%)」に次いで「日用品のまとめ買い(13.7%)」が多く、買物予定先は「ショッピングセンター(55.3%)」が最多だった。県外での買物予定地は、九州4市(※)の中で「福岡市(51.4%)」の回答が最も多い。
5. 生活状況は「変わらない(74.1%)」が最も多く、生活状況DIは「▲12.3」と前年比2.3P改善した。

※ 福岡市、大分市、熊本市、鹿児島市の4市

調査の実施要領

調査時期：2013年10月25日(金)～11月15日(金)

調査対象：宮崎県内の給与所得者(宮崎銀行営業部店経由)

調査方法：無記名アンケート方式

回答者数：737名

回答者の属性(単位：人、%)

年代別	人数	構成比	世帯別	人数	構成比	性別	人数	構成比	
20歳代以下	116	16.2	独身	217	30.3	男性	268	36.9	
30歳代	190	26.5	既婚	子供有り	398	55.7	女性	459	63.1
40歳代	242	33.8		子供無し	88	12.3	合計	727	100.0
50歳代以上	169	23.6	その他	12	1.7				
合計	717	100.0	合計	715	100.0				

注) 本稿では、アンケートの各質問項目での「不明(記入の無いもの)」は集計から除いた。
また、四捨五入の関係で合計が100%とならないこともある。

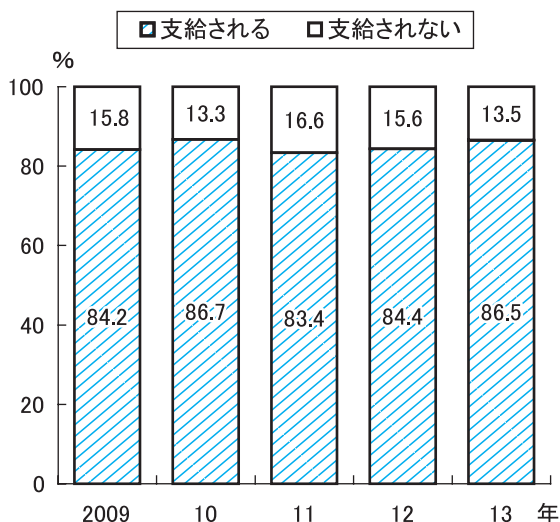
本アンケート調査につきまして、宮崎銀行経由でご協力頂きました皆様、誠にありがとうございました。

1. ボーナス支給の有無と増減見込み

(1) 「支給される」が86.5%

今冬のボーナスは「支給される（86.5%）」が前年比2.1P上昇したが、8年連続で9割を割り込んだ（図1）。

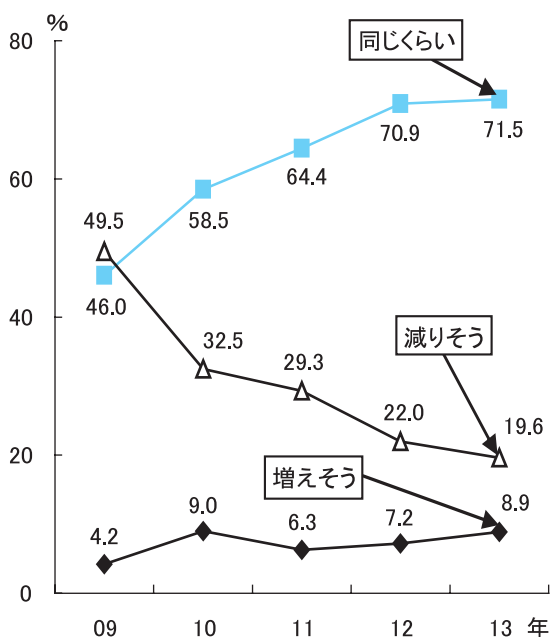
図1. 冬季ボーナス支給の有無



(2) 増減見込みは「同じくらい」が最多

ボーナスの増減見込みは、「減りそう（19.6%）」が前年比2.4P低下した一方、「同じくらい（71.5%）」は同0.6P上昇し、前年並みのボーナス支給額を見込む回答が多かった（図2）。

図2. 冬季ボーナスの増減見込みの推移



2. ボーナスの見込み額

「10万円以上30万円未満」が最多

ボーナスの見込み額は、全体で「10万円～30万円未満（37.3%）」が最も多く、「30万円～50万円未満（28.9%）」「50万円以上70万円未満（15.4%）」と続いた（図3）。

会社員は、「10万円～30万円未満」の回答が全体の約4割を占めた。“30万円未満”の回答は前年比減少した一方、“30万円以上”が増加したことから、見込額は全体として上振れた（表1）。

図3. ボーナスの見込み額

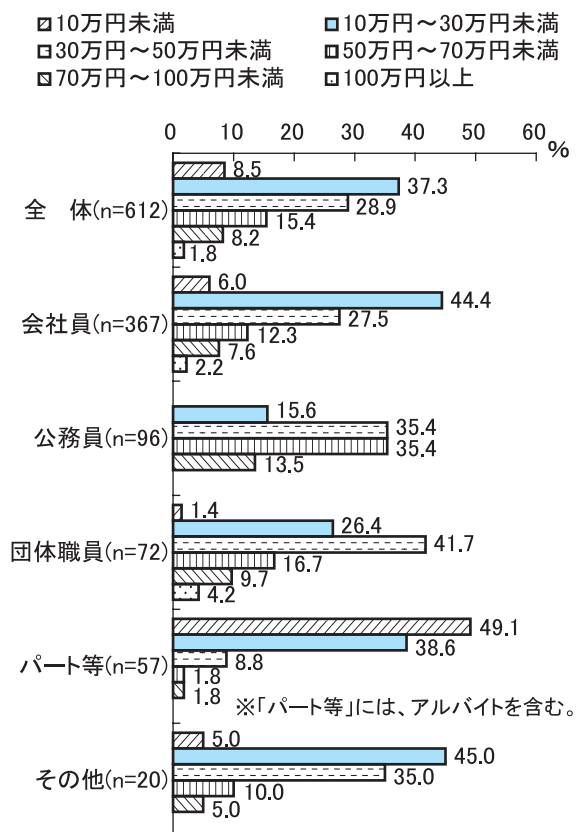


表1. 会社員の見込み額

(単位：%、P)

	10万円未満	10万円～30万円未満	30万円～50万円未満	50万円～70万円未満	70万円～100万円未満	100万円以上
2013年	6.0	44.4	27.5	12.3	7.6	2.2
2012年	12.6	50.0	23.2	8.8	3.4	2.1
前年比	▲6.6	▲5.6	4.3	3.5	4.2	0.1

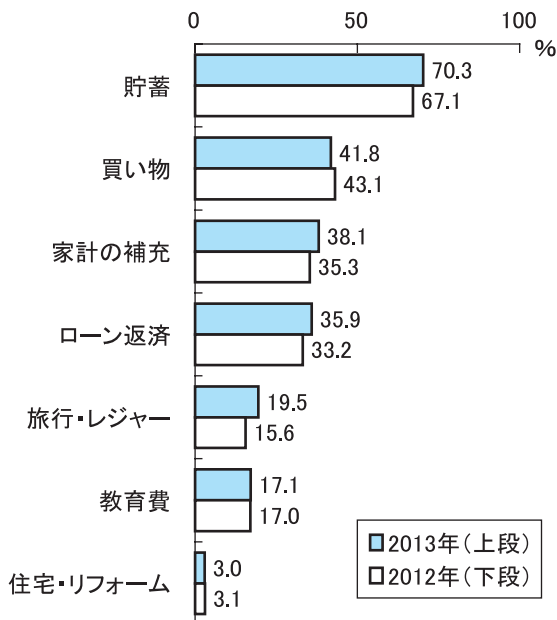
3. ボーナスの使いみち(複数回答)

「貯蓄」が最多

ボーナスの使いみちは「貯蓄(70.3%)」が最も多く、以下「買い物(41.8%)」「家計の補充(38.1%)」「ローン返済(35.9%)」と続いた(図4)。

使い道の比重は前年とほとんど変わらず、貯蓄を優先しつつ、買い物、家計の補充、ローン返済に充てる様子が見える。

図4. ボーナスの使いみち(複数回答)



(1) 「貯蓄」

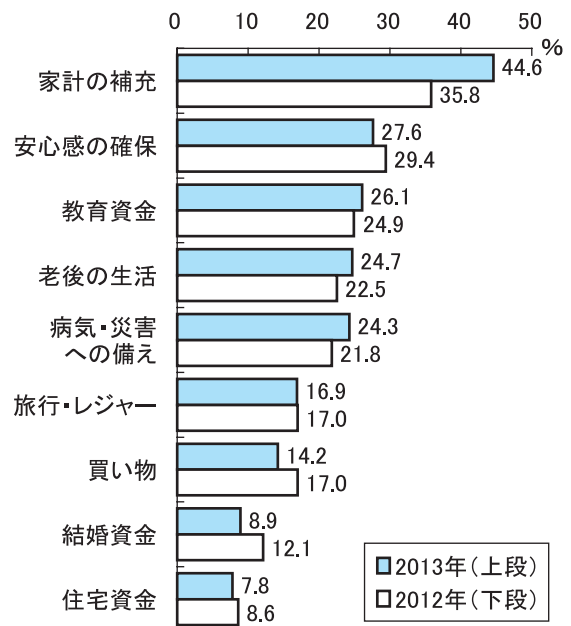
①貯蓄の目的(複数回答)

「家計の補充」が依然として最多

貯蓄の主な目的は「家計の補充(44.6%)」「安心感の確保(27.6%)」「教育資金(26.1%)」が上位を占めた。

「家計の補充」は増加幅が前年より大きく(+8.8P)、2014年4月に実施される消費税率の引き上げを見越し、家計の長期的な出費増に備えようとする意識がうかがえる(図5)。

図5. 貯蓄の目的(複数回答)



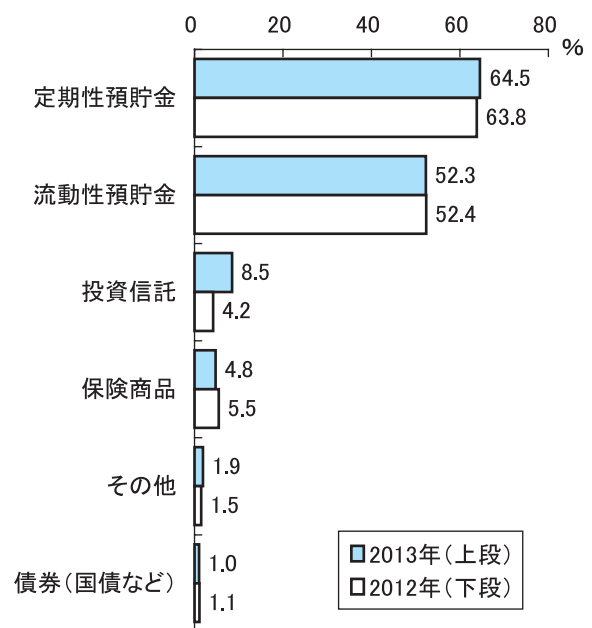
②貯蓄の方法(複数回答)

「定期性預貯金」が最多

貯蓄の方法は、昨年同様「預貯金」が最も多く、前年比ほぼ横ばいであった(図6)。

「投資信託(8.5%)」は同4.3P上昇し、預金以外の投資商品にも関心を示す動きが一部に見られた。

図6. 貯蓄の方法(複数回答)



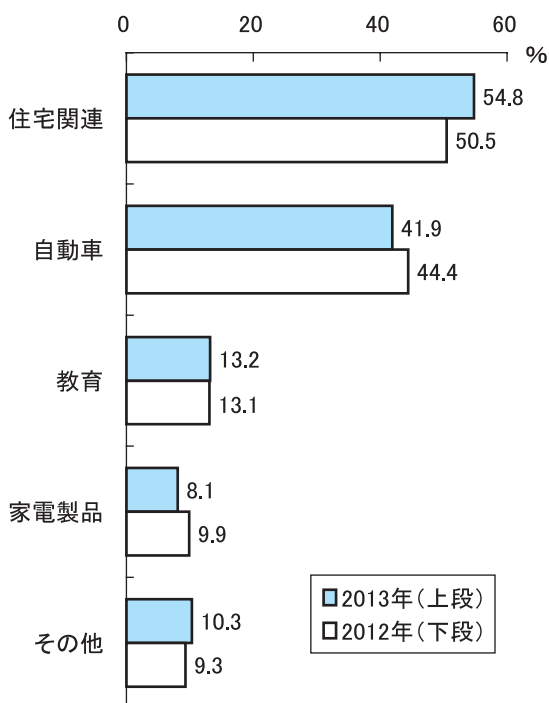
(2) 「ローン返済」(複数回答)

「住宅関連」「自動車」が二大項目

ローン返済では「住宅関連(54.8%)」と「自動車(41.9%)」の回答が上位を占めた。

「住宅関連」は前年比4.3P上昇し、2014年4月の消費税率引き上げ前に住宅を購入する一部の動きが、回答増に反映したとみられる(図7)。

図7. ローン返済予定の内容(複数回答)



(3) 「買い物」

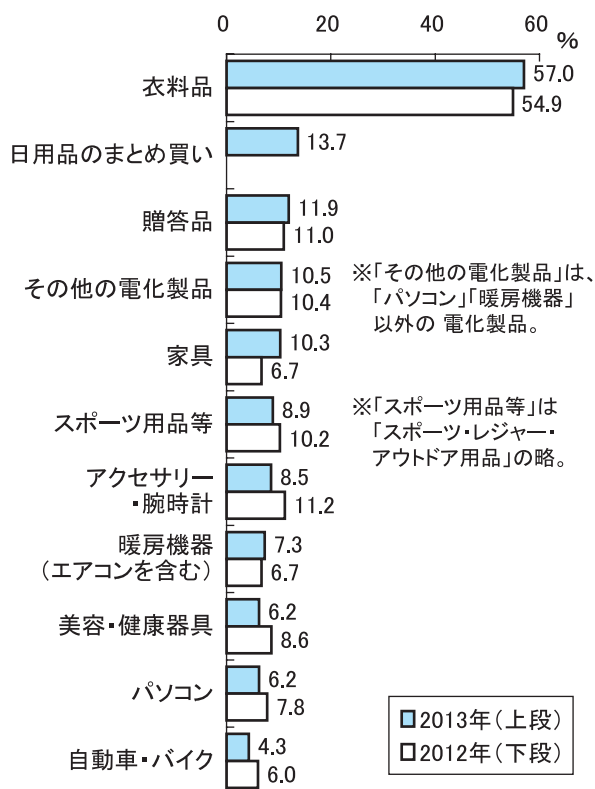
①購入予定品(複数回答)

「衣料品」が最多

購入予定品は「衣料品(54.9%)」が最も多く、以下「日用品のまとめ買い(13.7%)」「贈答品(11.9%)」と続いた。

新たに選択肢に加えた「日用品のまとめ買い」が上位になり、2014年春の消費税率引き上げが今冬の購入予定品にも多分に意識されている(図8)。

図8. 購入予定品(複数回答)



②買物予定先の店舗形態(複数回答)

ショッピングセンターがトップ

買物予定先の店舗形態では「ショッピングセンター(大型店)(以下「SC」)(55.3%)」が最多で、以下「百貨店(39.3%)」「通販・ネット販売(29.6%)」となった。

居住地別にみると、宮崎市、都城市で「百貨店」「専門店」が前年比低下した一方、「SC」は上昇し、特に都城市は「SC(65.2%)」が同+13.2Pと大きく上昇した。

「通販・ネット販売」は、全体で29.6%と、前年比6.8P上昇し「専門店」と順位が入れ替わった。居住地別でも全ての地域で前年比上昇し、特に延岡市(40.4%)は同+8.9Pと回答の増加が目立った(次頁表2)。

表2. 買物予定先の店舗形態 (複数回答)

(単位: %)

買物先 居住地	SC (大型店)	デパート・ 百貨店	通販・ネ ット販売	専門店	量販店
全 体	55.3	39.3	29.6	25.5	25.1
	53.7	41.5	22.8	29.8	21.7
宮崎市	53.7	35.6	28.7	23.4	26.6
	50.9	41.1	21.1	28.6	26.9
都城市	65.2	32.6	30.4	21.7	26.1
	52.0	38.7	26.7	32.0	14.7
延岡市	53.8	44.2	40.4	23.1	19.2
	57.4	40.7	31.5	20.4	20.4

回答者数 443人 ※上段: 2013年 下段: 2012年

③買物予定地 (複数回答)

「宮崎地区(注1)」「都城地区(注2)」「延岡地区(注3)」は、いずれも買物予定地を地元とする割合が最も高い。

「日南地区(注4)(76.7%)」と「小林地区(注5)(82.9%)」は、「宮崎市」を買物予定地とする割合が最も高い。「小林地区」は地元を買い物予定地とする回答も57.1%(前年比+10.4P)あり、2番目に高い。

「県外」は「小林地区」を除いて前年比低下した(表3)。

表3. 買物予定地 (複数回答、居住地別)

(単位: %)

買物先 居住地	宮崎市	都城市	延岡市	日南市	小林市	県 外
宮崎地区 (注1)	94.8	2.8	0.4	0.4	0.8	23.1
	95.7	3.0	0.9	0.4	-	25.6
都城地区 (注2)	58.6	86.2	-	-	3.4	34.5
	54.5	79.5	-	1.1	-	37.5
延岡地区 (注3)	47.6	1.0	61.0	-	-	56.2
	37.0	-	59.3	-	-	68.5
日南地区 (注4)	76.7	26.7	-	50.0	-	26.7
	69.2	7.7	-	42.3	-	38.5
小林地区 (注5)	82.9	31.4	-	-	57.1	40.0
	68.9	31.1	-	-	46.7	24.4

回答者数 479人 ※上段: 2013年 下段: 2012年

- (注1) 宮崎市、西都市、東諸県郡、児湯郡
- (注2) 都城市、北諸県郡
- (注3) 延岡市、日向市、東臼杵郡、西臼杵郡
- (注4) 日南市、串間市
- (注5) 小林市、えびの市、西諸県郡

④県外での買物予定地 (複数回答)

「福岡市」が過半数を占める

県外での買物予定地は、「福岡市(51.4%)」の割合が最も高く、以下「鹿児島市(31.2%)」「熊本市(25.4%)」「大分市(23.7%)」と続いた。「熊本市」は前年比3.0P低下し「鹿児島市(同+3.3P)」と順位が入れ替わった(表4)。

表4. 県外での買物予定地 (複数回答)

(単位: %)

	福岡市	鹿児島市	熊本市	大分市
2013年	51.4	31.2	25.4	23.7
2012年	53.8	27.9	28.4	16.8

回答者数 173人

4. 最近の県外での買物動向

(1) 買物頻度

最近1年間で県外主要4市へ買物に行った頻度は、全ての市で「2~4回」の回答が最多であった。「福岡市」「熊本市」「鹿児島市」の「2~4回」は前年比低下した一方、「1回」が上昇し、買い物頻度の減少が一部にみられる(表5)。

表5. 県外での買物頻度 (複数回答)

(単位: %)

頻度	福岡市	熊本市	鹿児島市	大分市
1回	38.3	39.2	38.1	36.5
	36.9	34.6	26.2	43.2
2~4回	50.2	40.6	40.6	41.7
	52.2	42.9	57.3	30.5
5~9回	9.1	7.0	14.2	13.0
	7.8	11.3	12.2	18.9
10回以上	2.4	13.3	7.1	8.7
	3.1	11.3	4.3	7.4

回答者数 253人 ※上段: 2013年 下段: 2012年

(2) 交通手段

県外主要4市への交通手段は、「福岡市」は「乗用車」が前年比上昇し、「高速バス」は低下した。他の3市では「乗用車」が約9割を占めた(次頁表6)。

表6. 県外主要4市への交通手段 (単位：%)

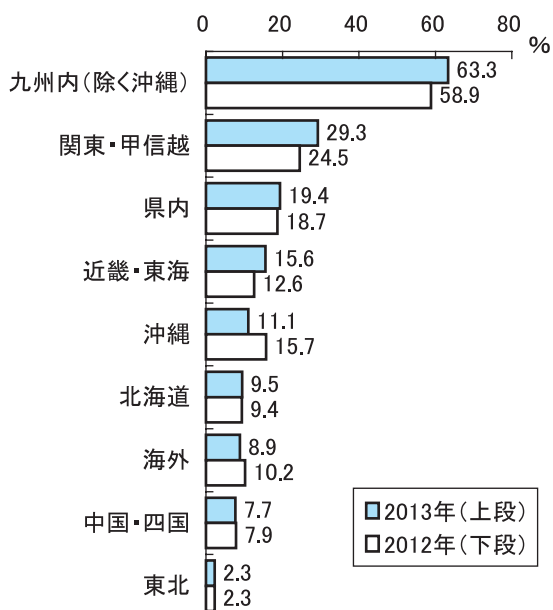
交通手段	福岡市	熊本市	鹿児島市	大分市
乗用車	52.1	90.2	88.7	94.5
	48.6	93.8	91.8	94.6
高速バス	35.4	8.3	2.8	-
	39.2	6.3	1.9	1.1
JR	5.8	1.5	8.5	5.5
	2.9	-	6.3	4.3
飛行機	6.7	-	-	-
	9.4	-	-	-

回答者数 240人 ※上段：2013年 下段：2012年

5. 今後の旅行・レジャー先(複数回答) 「九州内」が最多

今後の旅行・レジャー先は、「九州内(63.3%)」が最多で、以下「関東・甲信越(29.3%)」「県内(19.4%)」と続いた。「九州内」「関東・甲信越」は前年よりそれぞれ4P以上上昇した一方、「沖縄」は4.6P低下した(図9)。

図9. 旅行・レジャーの予定先(複数回答)



6. 現在の生活状況

全体では「変わらない」が約7割

現在の生活状況は、「変わらない」が全体の約7割を占めた。「悪くなった」割合は前年比1.7P低下し、生活状況DI

(注)は「▲12.3」と、前年比2.3P改善した(表7、図10)。

生活状況別では、全ての項目でDIのマイナス幅が縮小し、特に「レジャー・余暇等」で改善がみられるものの、依然マイナスの状況が続いている。前年並みのボーナス支給額が予想される中、日用品のまとめ買いや、家計の補充を目的とした貯蓄の回答が増える等、消費税率引き上げを意識した動きが一部にみられるが、総じて前年と同様の使いみちになると予想される。(勝池)

表7. 現在の生活状況

※(上段：2013年、下段：2012年) (単位：%)

	良くなった	変わらない	悪くなった	DI
全体	6.8	74.1	19.1	▲12.3
	6.2	73.0	20.8	▲14.6
衣生活	4.7	81.8	13.5	▲8.8
	4.9	79.8	15.2	▲10.3
食生活	6.4	81.6	12.0	▲5.6
	5.4	81.0	13.6	▲8.2
住生活	5.9	82.6	11.4	▲5.5
	5.0	82.5	12.5	▲7.5
レジャー・余暇等	6.5	68.6	24.9	▲18.4
	7.5	63.7	28.8	▲21.3

(注) DI = 「良くなった」割合 - 「悪くなった」割合

図10. 生活状況DIの推移

